

法面工 吹き付けコンクリートの凍結

事例の概要

山岳部の道路改良工事で、切土法面に現場打ち吹き付け法砕工を施工したところ、施工時期が厳冬期であったことと併せて、山岳部に日照が少ないことも重なり、吹き付けコンクリートが凍結してしまい、28日材令強度が基準強度を満たすことができませんでした。

原因

厳寒期の施工であることから、コンクリートの凍結防止対策を検討するべきでした。

また、施工箇所が日陰になるという現場条件の把握ができていませんでした。

対応策と教訓

- ・ 基準強度以下の不良部分コンクリートについては、ハツリ作業で除去後、再施工しました。
- ・ 冬期に山岳部、特に南側斜面で日照時間が短い場所でコンクリートを打設する場合は、適切な時期に工事を発注する必要があります。やむを得ず厳冬期に施工する場合は、コンクリートの配合や養生をしっかりと計画し、品質管理に注意しましょう。

解説図

